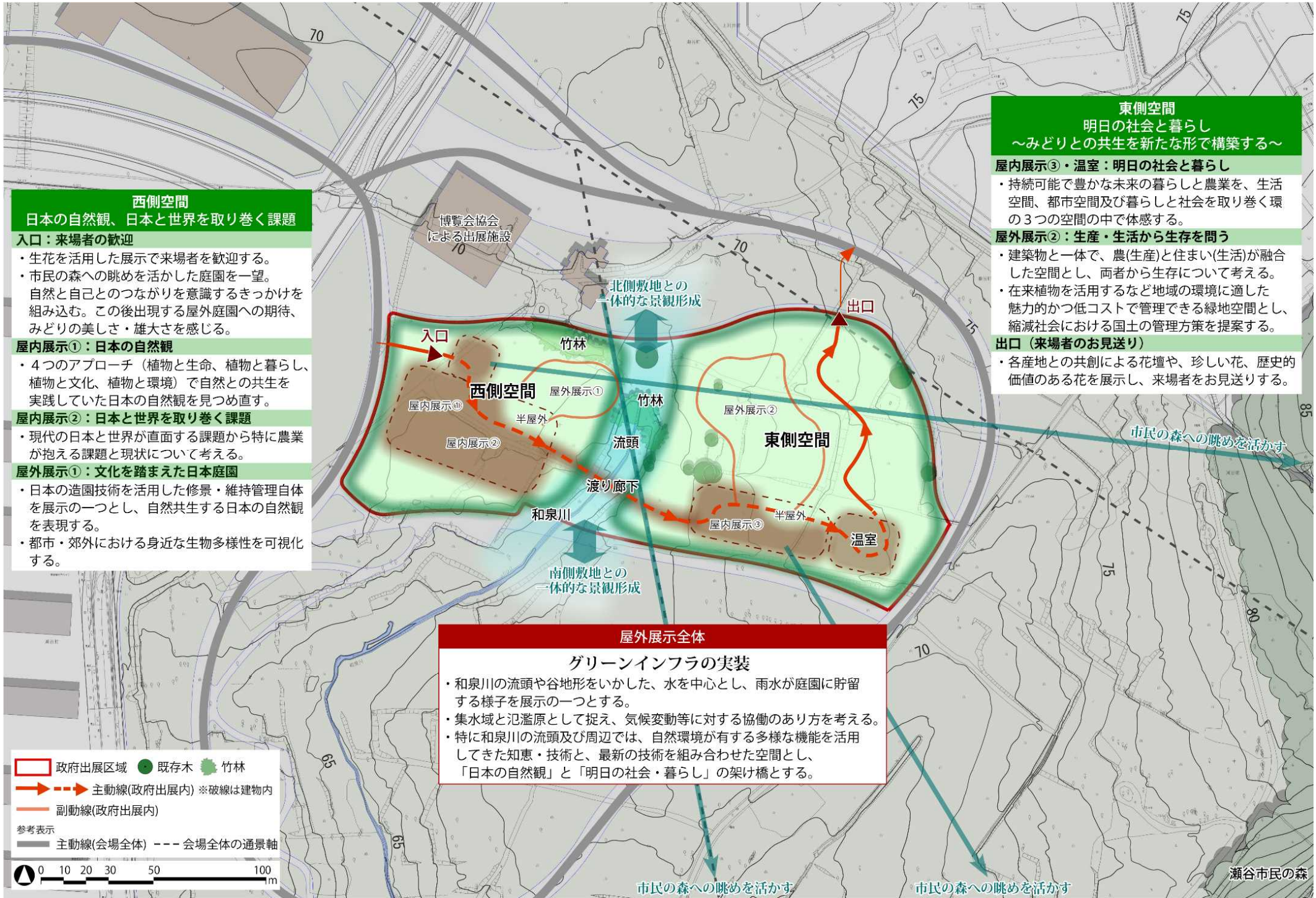
資料２

■ 基本計画図


西側空間
日本の自然観、日本と世界を取り巻く課題
入口：来場者の歓迎
・生花を活用した展示で来場者を歓迎する。
・市民の森への眺めを活かした庭園を一望。
自然と自己とのつながりを意識するきっかけを組み込む。この後出現する屋外庭園への期待、みどりの美しさ・雄大さを感じる。
屋内展示①：日本の自然観
・４つのアプローチ（植物と生命、植物と暮らし、植物と文化、植物と環境）で自然との共生を実践していた日本の自然観を見つめ直す。
屋内展示②：日本と世界を取り巻く課題
・現代の日本と世界が直面する課題から特に農業が抱える課題と現状について考える。
屋外展示①：文化を踏まえた日本庭園
・日本の造園技術を活用した修景・維持管理自体を展示の一つとし、自然共生する日本の自然観を表現する。
・都市・郊外における身近な生物多様性を可視化する。
東側空間
明日の社会と暮らし
～みどりとの共生を新たな形で構築する～
屋内展示③・温室：明日の社会と暮らし
・持続可能で豊かな未来の暮らしと農業を、生活空間、都市空間及び暮らしと社会を取り巻く環の３つの空間の中で体感する。
屋外展示②：生産・生活から生存を問う
・建築物と一体で、農(生産)と住まい(生活)が融合した空間とし、両者から生存について考える。
・在来植物を活用するなど地域の環境に適した魅力的かつ低コストで管理できる緑地空間とし、縮減社会における国土の管理方策を提案する。
出口（来場者のお見送り）
・各産地との共創による花壇や、珍しい花、歴史的価値のある花を展示し、来場者をお見送りする。
屋外展示全体
グリーンインフラの実装
・和泉川の流頭や谷地形をいかした、水を中心とし、雨水が庭園に貯留する様子を展示の一つとする。
・集水域と氾濫原として捉え、気候変動等に対する協働のあり方を考える。
・特に和泉川の流頭及び周辺では、自然環境が有する多様な機能を活用してきた知恵・技術と、最新の技術を組み合わせた空間とし、「日本の自然観」と「明日の社会・暮らし」の架け橋とする。
博覧会協会による出展施設
北側敷地との一体的な景観形成
南側敷地との一体的な景観形成
入口
出口
竹林
西側空間
屋外展示①
屋内展示⑪
半屋外
屋内展示②
流頭
渡り廊下
和泉川
東側空間
屋外展示②
屋内展示③
半屋外
温室
市民の森への眺めを活かす
市民の森への眺めを活かす
市民の森への眺めを活かす
瀬谷市民の森
政府出展区域
既存木
竹林
主動線(政府出展内) ※破線は建物内
副動線(政府出展内)
参考表示
主動線(会場全体)
会場全体の通景軸
0 10 20 30 50 100 m